



南北海道現代俳句協会報

号 20 行
32 12.
第 R3. 発

共創と俳句

〜俳句の新たな可能性〜

南北海道現代俳句協会

事務局長

佐藤日和太

俳句というもののおもしろさのひとつ、しかもかなり本質的と思われるおもしろさのひとつは、それがしばしば多様な解釈の余地を残しており、また、その多様な解釈のあれこれを通じて——しかもしばしば矛盾し合う解釈を通じてさえ——一句の世界がますます深み・奥行きを増しつつ、動かしがたいひとつの姿にきわまってゆくところにあると思う。

(大岡信「私の古典詩選」岩波書店より)

同じ短詩型であつても、俳句と短歌の特質の違いはここにあると言えます。言い換えれば、一義的な読みを要する短歌と多様な読みが許される俳句となりましょう。また、これは、どの詩型にも当てはまることですが、「発見」が根本にあります。普段見慣れた風景の中に今まで見えなかつたモノが突然目に入ってきたり、今まで感じ得なかつた心象が天から降ってきたように身

体の奥底に染み込んできたりする経験は、皆さんにもおありかと思えます。そのことをストレートに伝えたいという人は短歌を、少しばかりボジーを纏わせながら、とりあえず表現したい人は俳句を選ぶのがベターなのだと思います。坪内稔典氏の『俳句の人間短歌の人間』には、主観的で情熱的な長嶋茂雄タイプが「短歌の人間」で、客観的で冷静な野村克也タイプなのが「俳句の人間」だと書かれています。私は、どちらかと言えば「短歌の人間」に属すると思うのですが、表現形式として「短歌」ではなく、「俳句」を選びました。ひよつとしたら、無意識のうち、「俳句」を作ること、精神的なバランスを整えているのかも知れません。

もう一つの特質としてあげた「発見」という視点で考えると、街づくりなどにも活用できそうです。街を吟行しながら歩きまわり、発見したことを俳句で表現する。それを句会で共有し、それぞれの鑑賞を元に、その場にいる人それぞれ

れの再発見へと繋げていく。そこから、未来と続くナラティブ(物語)が形作られ、それが街の魅力とリンクし、街作りのヒントにする。この一連の流れは、各地方自治体で行われている「まち再生プロジェクト」の会議で議論されている流れに近い感じがします。

私の勤める函館西高等学校の生徒と公立はこだて未来大学の学生とで、函館の西部地区(駅よりも函館山方面)を散策しながら、気づいたこと、発見したことを俳句にしてみようという吟行会形式のイベントをしました。元々、未来大学の岡本誠教授から、「共創をテーマに大学生と高校生と何かできたら面白いですね」と問いかけられたことがきっかけでした。その時、私が俳句をやっているということから、今回のイベントの企画に繋がりました。大学生と高校生を混ぜてグループを作り、グループ毎まとまってお互いの地区を散策し、気づいたことをメモしたり、写真を撮ったり、スケッチをしたりしながら、2時間歩きまわり、投句してもらいました。

今回、はじめて俳句に挑戦した生徒、学生がほとんどでしたが、事前に大学へ赴いて講義したり、高校生には放課後の時間帯で俳句の勉強会をしたりしましたが、今回はじめて俳句を作る経験の学生、生徒ばかりでしたが、佳句が出揃いました。句会をして、お互いの批評、鑑賞をすることがとても新鮮で愉しかったと感想を述べている学生もいました。その後、自作一句を、未来大学の岡本教授からデザイナーの手ほどきを受けながら、B3サイズのポスター原稿に仕上げまし

た。年明けに印刷され、一月十五日より一ヶ月間、函館市電ラックル号に展示される予定です。その中からいくつか紹介します。

教会の石畳の奥秋の暮

秋の空黒猫歩く石畳

メロンパンじつとみつめる秋鳥

石畳影なき道の秋鳥

函館西高校 佐藤 紅将

函館西高校 湊谷 奏太

函館西高校 小本 聖一

未来大学 鈴木 ほか

未来大学の岡本教授は、「共創」を研究テーマにされているデザイナーが専門の先生です。「共創」とは、「協働して共に新たな価値を創造する」ということだそうです。例えば、よくコラボレーション商品などが話題となりますが、これも

「共創」の一つです。それを街づくりに落とし込みたい。函館の西部地区を「共創」しようと活動しているのが岡本教授です。様々な業種世代の人たちに声をかけ、それぞれの視点、それぞれの意見やアイデアを共有して、街の魅力を発見、再発見し、それを街づくりに活かすという活動をしていらつしやいます。

今回の吟行句会では、先ほどの句のうち前三句のように「石畳」に注目した作品と、後二句のように「鳥」に注目する句が多かったのが印象的でした。「石畳」は、魅力の一つとしてアピールできる発見の一つですが、「鳥」は食べ物を持つて歩いていると襲ってくることもあるため、かなり危険な存在となります。観光地であることを考えると観光客の安全を保証するという視点を発見になります。このように俳句を作ることをきっかけに街のことを考え、街づくりに活かすという俳句の新たな可能性が見えてきました。

それでは最後に岡本教授のはじめて作った吟行句を紹介します。

冷やかなブロンズの指ソーセイジ

岡本 誠

確かにレイモンさんのブロンズ像の指は、かなり太めでソーセイジのようです。ブロンズの固さとソーセイジの柔らかさや、その温度感の違いの対比が面白い句だと思います。

この句から直接的に街づくりにつながる何かが見れてくることは難しいかもしれませんが、この時代ですから、SNSを通して、この句に興味を持つてくれた人が、実際にその街を訪れるということもゼロではありません。これも俳句の新たな可能性のひとつになり得るのかなと思います。これからも継続して「共創」と「俳句」について考えていきたいと思えます。

令和二年 会員の一句

※令和三年三月末日事務局到着分・五十音順

函館市 上田 敦子 (辭)

元朝の呼気の育てる火種かな

このキスも不要不急のロマンスなのか

函館市 坂本 朱夏

函館市 斉藤 ふじお（葦 牙）
金平糖角より溶けて春を待つ

鹿部町 都賀 由美子（ 解）
明け方の星を嗅ぎあう螢かな

函館市 境 田 美恵子（ 解）
寒晴やかからんころんと外れ籤

北斗市 釣 谷 せい子（ 解）
綱雲父の腕に母の背に

函館市 佐藤 日和太（ 解）
真つ直ぐに冬至の墜ちる避雷針

函館市 沼 尻 世江子（ 解）
帰省子のところどころが標準語

函館市 白井 雅女（ 解）
この星を去りていつしか秋桜

函館市 船 矢 深雪（ 解）
渡る鳥渡らない鳥お告げ祭

室蘭市 進 藤 芙蓉（ 玄鳥）
胴ぶるいする洗濯機年詰まる

室蘭市 宮 川 三保子（歯車・樹）
地球儀の芯のぐらつく感染症

函館市 杉野 一博（ 解）
昨日から小鳥の飛んだあとにゐる

函館市 森 井 まさし（ 解）
蛸の最後のカナや海遠し

新ひだか町 鈴木 築峰
九十路のまなこひろげて遠カッコ

むかわ町 藪 田 慧舟
人生をそこそこ生きて温め酒



日高町 山中 昇（海 原）
海鳴りをサンブリ聴いて冬はじめ

事務局便り

▽コロナもなかなか落ち着きませんが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。巣ごもりながらも作句に勤しんでいらっしやることと思います▽本協会もコロナ禍の影響を受け、例年行われている各地区での吟行会も見送られ、実質的な活動ができず、皆様にはご不便をおかけしております。しかし、ケガの功名ではありませんが、予算の関係で一度見送った合同句集を発行することができませんでした。一部、誤植があり、ご迷惑をおかけいたしましたが大変好評をいただいております。今後このようななかたちでの発行になるかもしれませんが、四年に一度の発行を目指していきたいと思っております▽コロナ禍と申ししましても、少しずつ動き始めました。今年の夏、中の沢小学校からの依頼で小学三年生に俳句の授業をしてみました。私自身、原点に帰ったような経験をさせていただきました。普段使っていることばで説明しても伝わらないため、教えるための言葉選びに苦労しましたが、面白がつて俳句を作ってくれました。意外だったのが、「風薫る」という季語を気に入ってくれた子どもたちが多く、佳句がたくさん生まれました▽今回、「共創」と俳句という文章を書かせていただきました。俳句愛好者だけでなく、その枠を越えて俳句を作ることを経験し、それを別な形に活かすという実験の報告です。「共創」というテーマで取り組みがその中心でありましたが、俳句を作ることとを単純に楽しんでくれた生徒、学生が多くいたことが今回の成果の一つでもありました。少しでも裾野を広げていければと思います。もし、今後、このような取り組みがまたありましたら、本協会もその「共創」の一翼として協賛できたらと考えています。その時は、会員の皆様にもご協力を仰ぐことになるかもしれませんが、久しぶりに明るいニュースとなりました。▽本年は、久しぶりに新規入会者がありました。この数年、会員減少の一途をたどっていました。久しぶりに明るいニュースとなりました。来年以降も裾野を少しでも広げられるよう努力いたして参ります▽来年は、マスクはまだ外せないとしても、各地区で吟行会が開かれ、会員間の交流が活発にできるようになればいいですね。それまで、ご健吟のこと心より祈念申し上げます。

(目和本)

合同句集の訂正

七頁 落合敏子さんの句

- × 冬怒濤吠えしも千鳥振り向かず
- 冬怒濤吠えしも千鳥振り向かず

※訂正しお詫び申し上げます。

☆地区会費納入のお願い☆

来年度の地区年会費千円の納入をお願いします。同封いたしました、払込取扱票を使って郵便局でお手続きのほどお願いいたします。今後も地区協会の活動内容を見直しながら、現状の会費を維持していきたいと思っております。皆さんのご理解とご協力を賜り、事務局として運営してまいります。